

国立大学法人お茶の水女子大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場として、すべての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障され、自由に自己の資質能力を開発し、知的欲求の促すままに自己自身の学びを深化させることを目指している。第2期中期目標期間においては、21世紀の社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、グローバル女性リーダーを育成するため、これまでの女性リーダー育成の実績を生かした「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」の開講や、国際シンポジウム「ダイバーシティ・リーダーシップ～4大陸の駐日女性大使を迎えて～」を開催するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な取組の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいる。

- 国立女子大学ならではの重点研究領域として「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設置するとともに国内外から女性研究者を招へいし、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に貢献する研究教育を通じて、世界で活躍できる女性リーダーの育成機能を強化する計画（平成26年度に中期計画を変更）を定めており、平成26年度においては、グローバル女性リーダーの育成を中心とした機能強化のための三次元改革（事務組織改革、教員組織改革、教育研究機能の強化）のうち、事務組織改革を行うとともに、教員組織改革に着手している。
- 奈良女子大学と連携し、女性の特性を生かした新たな理工系研究・教育の在り方を開発することを目的に、女子の理系進学を阻害している要因を取り除き、女性に適した新たな理科教育の方法を中等教育課程・高等教育課程それぞれに即して確立するとともに、「生活工学」分野においてイノベーションを先導する女性リーダーの育成を行う計画（平成26年度に中期計画を変更）を定めており、平成26年度においては、大学の枠を越えた科学技術創造立国の中核となる理工系女性リーダー育成拠点を構築するため、奈良女子大学との間で「理系女性教育開発共同機構」及び「生活工学共同専攻」の設置等を内容とする協定を締結している。

(機能強化に向けた取組状況)

機動的かつ柔軟な体制で効率的に業務が遂行できるよう、副学長の中に総括副学長を置くことや組織を越えたプロジェクト型チームを設置することを可能とするとともに、重点研究領域への資源の再配分による研究力強化のため、「基幹研究院」及び「プロジェクト教育研究院」を設置することを決定したほか、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に貢献する教育研究拠点として、「グローバルリーダーシップ研究所」及び「ジェンダー研究所」からなる「グローバル女性リーダー育成研究機構」の設置を決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学長のリーダーシップによる戦略的経営を支える事務組織体制の構築

ガバナンス機能を強化し、機動的かつ柔軟な体制で効率的に業務を行うため、従来から存在する複数の機構を統合した「学長戦略機構」を創設し、「総務室」等の「室」を「学長戦略機構」の下に置くことにより執行体制を一元化したほか、副学長（事務総括）の創設や細分化したチーム制の見直しにより事務組織を一元化するなど、事務組織改革を実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 17 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ メールマガジンを活用した情報発信や卒業生ネットワークの拡大

毎月 2 回配信しているメールマガジン「OchaMail」について、実施したニーズ調査の結果を踏まえ受信者にとって重要な情報を優先して掲載するなど、受信者に適した情報発信方法の改善を行うとともに、卒業生ネットワーク拡大のためのメールマガジン「卒業生版 OchaMail」を新たに季刊配信した結果、卒業生から在学生に対するキャ

リア支援や卒業生間の異業種交流のきっかけとなるなどの効果を得ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- **女性リーダー育成の実績を生かした社会人女性に対する質の高い再教育プログラムの提供**
上位の管理職を目指す社会人女性を対象とした生涯学習講座「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾（徽音(きいん)塾)」を開講し、経営や組織マネジメント、リーダーシップ、財務会計等の講座を実施するなど、これまでの女性リーダー育成の実績を生かした国立の女子大学ならではのきめ細かで質の高い学びと交流の場を提供しており、平成26年度は延べ69名が受講している。
- **工学系の女性研究者比率の向上のための取組**
芝浦工業大学及び国立研究開発法人物質・材料研究機構と共同で、文部科学省「科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」に採択されており、キックオフ・シンポジウムを開催するなど、工学系の女性研究者比率の向上のための取組を実施することとしている。
- **大学図書館学習サポーターの養成の活用**
附属図書館における学習サポート機能を強化するため、教員、学外の専門家、図書館員からアカデミックスキルズに関するトレーニング（図書館情報探索講習、論文の技法、ライティング支援等）を受けた大学院生10名を「Library Academic Learning Adviser (LALA)」として新たに配置し、学生に対するサポートの実施や、学生と教員・学内関連部署への橋渡しを担うなど学習支援体制の強化を図った結果、LALAへの相談回数は月平均で283件、アカデミックスキルズに関する質問数は、月平均で98件となっている。

○ 区立認定こども園の運営を通じた社会貢献

教育研究活動の実践と成果の社会還元を通じて、文京区全体の保育サービス・幼児教育の質の向上を図るため、文京区と協定を締結し、区立の保育所型認定こども園の敷地内への開設及び同園の運営受託を決定しており、平成 28 年 4 月の開園に向けて準備を行っている。